

八日、連公居住難波而卒之、屍有異而覆矣、天皇勅之、七日使留、詠於彼、忠遜之三日、乃蘇甦矣。○中名

曰還俗連公也。○略

非理奪他物爲惡行受惡報示奇事緣第卅

膳臣廣國者、豐前國宮子郡少領也、藤原宮御宇天皇○文之代、慶雲三年乙巳秋九月十五日庚申、廣

國忽死、遜之三日、戊日申時更甦之。○下

〔伊勢物語上〕昔わかき男、けしうはあらぬ女を思ひけり、さがしらすおや有て、思ひもぞつくと

て、此女を外へをひやらんとす。○中さるあいたに、思ひはいやまさりにまさる、俄におや此女を

をひうつ、男ちのなみだをながせども、とむるよしなし、証詰ていぬ、男なく、よめる、

出ていなばたれか別のかたからんありしにまさるけさはかなしも、とよみてたへ入にけり、

おやあはてにけり、なを思ひてこそいひしが、いとかくじもあらじと思ふに、じん實にたえ入に

ければ、まどひて願たてけり、けふの入あひばかりにたへ入て、又の日のいぬの時ばかりになん

からうじていき出たりける。○下

〔江談抄三雜事〕公忠弁忽頓滅蘇生俄參内事

公忠辨俄頓滅、歷兩三日、蘇生告家中云、令我參内、家人不信、以爲狂言、依事甚懇切、被相扶參内、自

瀧口戸方申事由、延喜聖主驚躁、令謁給、奏云、初頓滅之剋、不覺而至冥宮門前、有一人、長一丈餘、衣紫

袍、捧金書札、訴云、延喜主所爲、尤不安者、堂上有紆朱紫者、世許輩、其中第二座者、嘆云、延喜號頗以荒

涼也、若有改元、歟云々、事了如夢、忽蘇生、因之忽改元、延長云々、

〔元亨釋書九感進〕釋日藏、洛城人。○中天慶四年秋、於金峯山、剋三七日、絶食不語、修密供、八月一日午時、

修法之間、忽舌燥氣塞、欲呼人相救、又思已稱不言、豈得出聲、如是思惟、氣息既絶。○中藏凡過十三日、

蘇息。○下